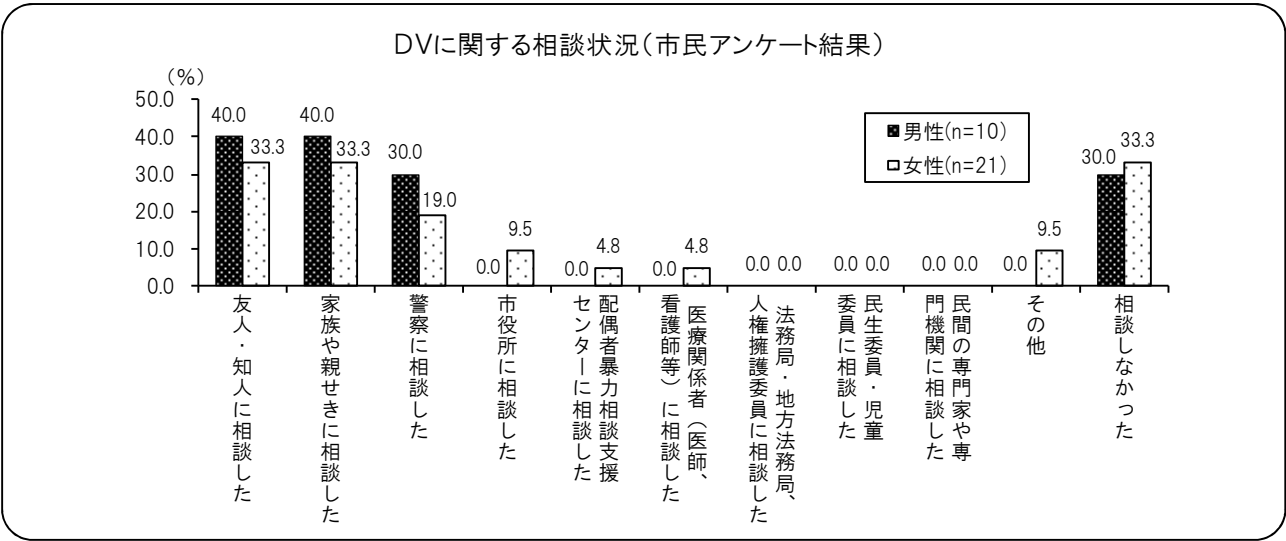
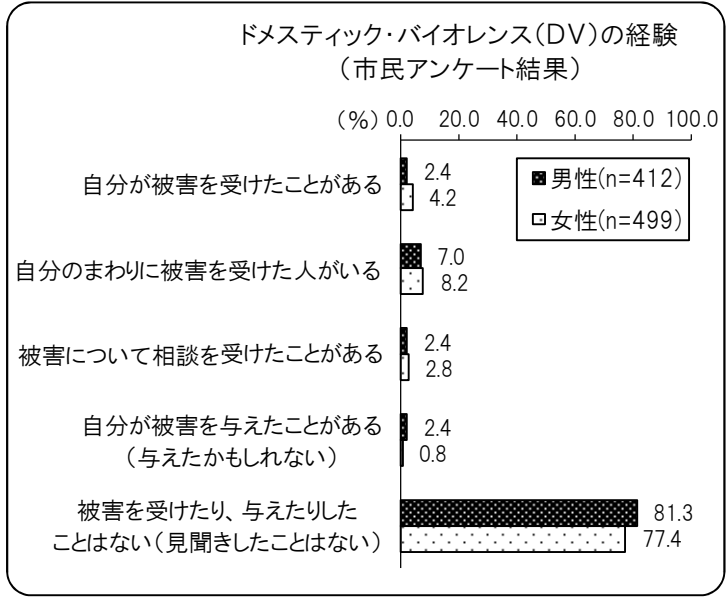


【第4次三豊市男女共同参画プランの重点施策の方向性について】

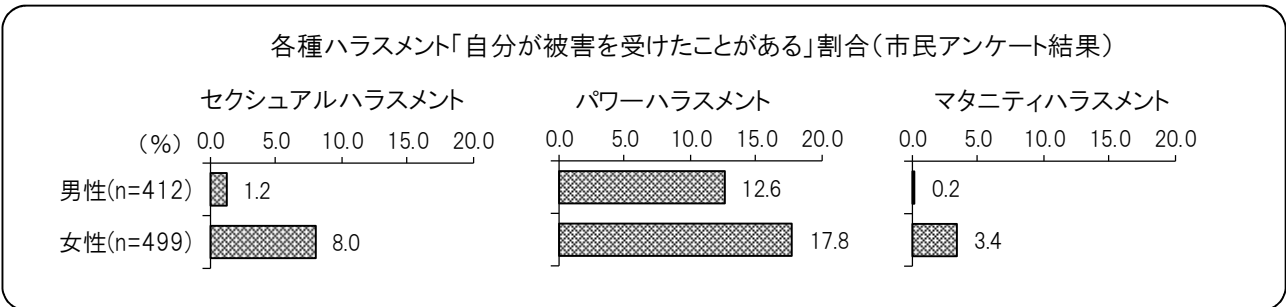
重点施策1 あらゆる暴力の根絶

市民アンケート調査結果では、DVについては、女性が被害者となっている割合が相対的に高く、被害について友人や知人、家族や親戚に相談する人は多いものの、むだだと思って相談しなかった、自分さえ我慢すればといった理由で相談しなかった人も多くみられます。

また、DVをなくすためには「相談しやすい環境づくりや窓口の充実」をはじめ「被害者保護やカウンセリングの充実」などが求められています。



ハラスメント行為についても、女性の被害割合が男性を上回っています。



高校生アンケートでは、身体的、精神的暴力に加え、勝手にメールを見るなど社会的隔離の被害を受けた生徒も、少ないながらも存在しています。DVに関わっている生徒をどのように発見し、どのように支援していくか、継続的な課題です。

あらゆる暴力を許さない意識づくりに向けて、DV防止に向けた啓発と相談窓口の周知をはじめ、性犯罪やストーカー行為、虐待、インターネット等による性的な嫌がらせやハラスメント行為など、多様化する暴力の防止に向けて、多様な機会を通じた啓発活動の充実が必要です。

特に、若年層に対しては、デートDV等の被害防止に向けて、学校教育の場などにおける教育や意識啓発の強化が必要です。

男女共同参画の推進に三豊市が力を入れるべきこと（参考資料 3 ページグラフ）について「DVなど相談しやすい体制づくり」は、上位に回答されていることから、きめ細かな相談支援体制づくりに向けた取組が必要です。

主な取組目標（大項目）

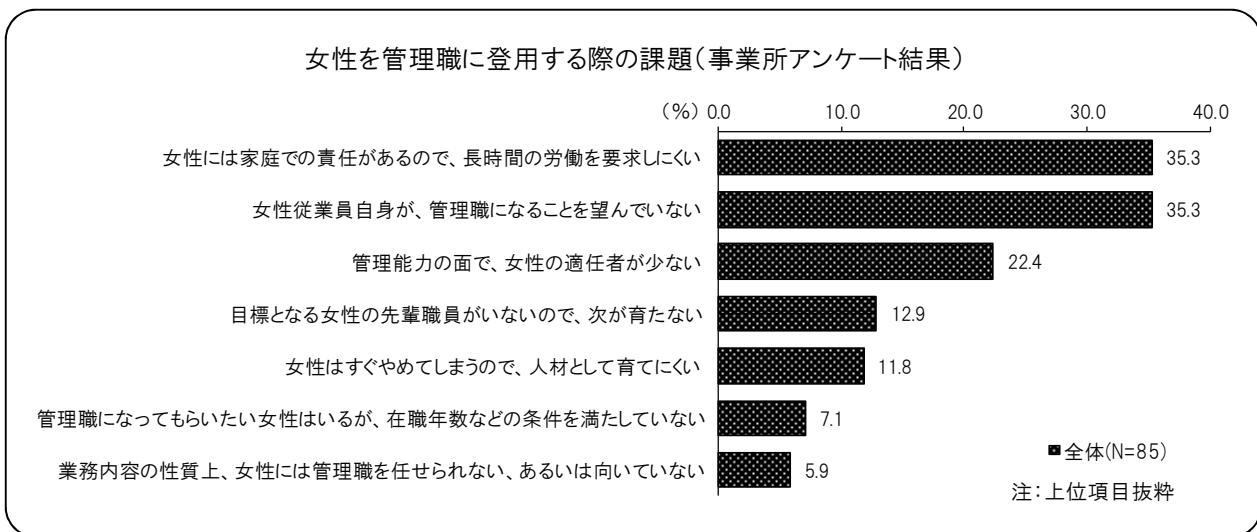
- ・ DV防止に向けた啓発と相談窓口の周知
- ・ ストーカー被害、インターネットによる精神的被害の拡大防止
- ・ 若年層へのデートDV等防止の啓発の強化
- ・ 市・県・医療機関・警察・自治会等の連携による連絡・救済体制の充実
- ・ ハラスメント防止に向けた広報・啓発

重点施策2 働き方改革の推進

男女共同参画の推進に三豊市が力を入れるべきこと（参考資料 3 ページグラフ）として「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」は、最も高く回答されています。

社会での活躍を望む女性に対する様々な阻害要因の排除と、誰もが働きやすい職場環境づくりは、本市における重要な施策として位置付けられます。

また、今回の事業所アンケート調査では、女性の管理職登用については積極的な意識を示す事業所が多くみられましたが「女性には家庭での責任がある」「女性自身が管理職になることを望んでいない」といった理由から、登用が進んでいないという現状がみられます。



事業所の経営者層への意識啓発の充実をはじめ、性別にかかわらず育児休業や介護休業を取得しやすい環境づくり、柔軟な働き方に関する情報提供の強化などが必要です。

性別にかかわらず、誰もがワーク・ライフ・バランスを実現することができる「働き方改革」の在り方に視点を置き、現行計画における重点施策の更なる推進、取組の強化を図る必要があります。

主な取組目標（大項目）

- ・ 事業所への意識啓発の強化、小規模事業所や大規模事業所など、事業所の特性に応じた効果的な啓発活動の推進
- ・ 男性中心型労働慣行（男性世帯主労働型）の解消
- ・ 性別にかかわらず育児休業・介護休業を取得しやすい環境づくり
- ・ きめ細かな子育て支援サービス、介護支援サービスの充実、強化
- ・ DXの推進と共に進めるテレワーク等多様な働き方の定着促進

重点施策3 教育等を通じた男女の意識改革・理解の促進

男女の平等意識について、今回の高校生アンケート結果と18歳以上市民を比較すると、高校生では、ほぼ全ての項目で18歳以上市民の平等意識を大きく上回っています。(下グラフ参照)

高校生が就職等により社会に出ると、賃金や待遇、昇進や昇格に存在する「男女間の格差」を現実のものとして体験していくことがうかがえます。

今の小学生や中学生、高校生など児童・生徒が、大人になり社会に出て家庭を持ち、子育て中心の時期となる2040年代を見据えた中長期的な目標設定も視野に入れる必要があります。

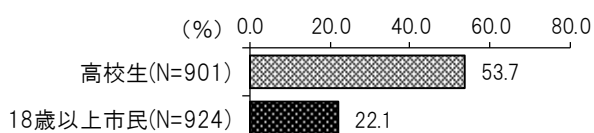
また、市民アンケート調査結果では、家庭生活と男女の役割について「男は外で働き女は家庭を守るのが望ましい」や「男は男らしく、女は女らしく」という価値観や考え方に代表される「固定的な性別役割分担意識」は、依然として根強く、年齢による差が顕著となっています。男女共同参画に関する年齢などに応じた効果的、継続的な意識啓発への取組が必要です。

主な取組目標（大項目）

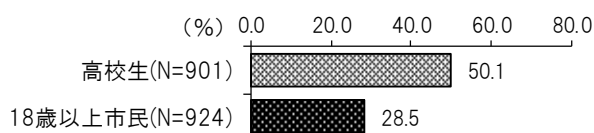
- ・ 学校教育を通じて、男女共同参画に関する理解と認識を深め、積極的に行動しようとする子どもの育成
- ・ 幅広い世代に対する固定的な性別役割分担意識の解消、性差への偏見の解消
- ・ 若い世代の心を大切にされた啓発活動の強化、進路など将来を見据えた意識改革、情報発信の強化
- ・ アンコンシャスバイアスの理解促進

高校生と18歳以上市民との比較「男女平等になっている」への回答割合

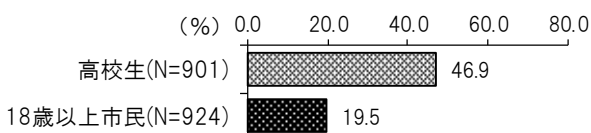
① 家庭生活



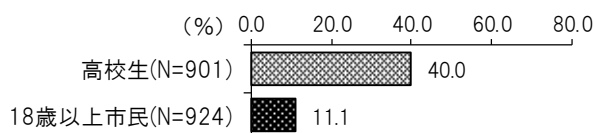
⑤ 法律や制度の上



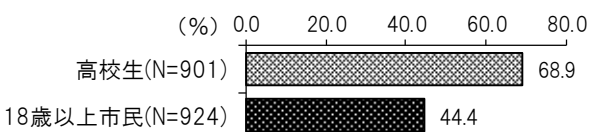
② 自治会やPTAなどの地域活動の場



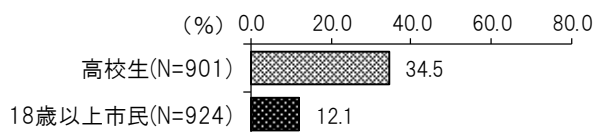
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど



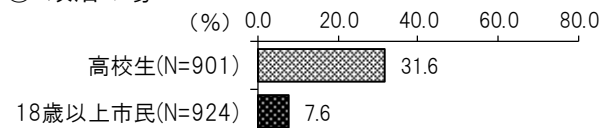
③ 学校教育の場



⑦ 社会全体



④ 政治の場



注：「③学校教育の場」について、高校生では「授業・部活・校則・委員会活動等」となっている。